
フィンダリア帝国史世界設定集

ねおばーど

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

フィンドリア帝国史世界設定集

【Nコード】

N1526H

【作者名】

ねおばーど

【あらすじ】

「フィンドリア帝国史世界設定集」これは小説ではありません。キャラ設定の紹介画面と同じものとお考え下さい。本来の小説とは違います。人名たくさん、役職・肩書き等で途中分からなくなるのは…実は作者もできて、これは作者が自身でまとめている辞書ファイルの改良版です。どのような方法で皆様にご覧頂くかと考えた結果、別小説でアップしてリンクさせた方が一番見やすいと思いました。各話の最後のところとリンクさせます。分からない人名等がありましたら照らし合わせて見て下さい。人名は本編・外伝ほぼ対

応。作者のちよつとした設定（部分的ですが）つき。

（『改訂・1』 2009/8/17 修正・加筆）

（『改訂・2』 2009/12/12 加筆・イラスト追加）

（『改訂・3』 2009/12/30 地名（国名）、人名変更・

修正・加筆）

（『改訂・4』 2010/2/4 「シレジアの王太子」人物相関

図・国家相関図追加）

（『改訂・5』 2010/2/20 「フィンダリア帝国史」人物

相関図その1追加）

世界設定集〈A行（前書き）

ご要望を受けまして、「フィンダリア帝国史用語集」をアップします。

何か気付いた事がありましたら連絡下さい。

世界設定集〜ア行

<フィンドリア帝国史世界設定集?ア行>

順次更新予定(年齢は現在で)

登場人物()・用語()

『アイテール』:ジュリアスの聖獣。『風』の特性。その名の意味は『天空の乙女』。

主命であり実体化しない聖獣さんらしい。(今のところは……)

アヴェント公キルロイ:最年長の閣僚、典礼省長官。あだ名は「まあまあ老公」。

アキム・シューイスキー:シレジアの武将、そしてかつてはセリーの『侍従』年はセリーよりは幾つか上。セリーの侍従時代は『準男爵』だったが、それから出世し今では男爵位を授与されている。(世襲位確保)お兄さんである。(外伝より)

アグストリア諸国連合:

『西』と呼称されるこの世界の西の大国連合国。『宗主国』の名が『アグストリア』である。シェビニオン、バルンタイン、アビホーン、マルベリー、シヨパール、モリナルという六カ国が、『宗主国』アグストリアという国を中心にまとまる合州制の大国。現国王は「ジャン・カーレル」。

(2009/12/29 国名・国王名変更あり。)

アグロヴァル：ノーサンブランドの王、ベリノアの末子。
父親の敵討ちの為にセネリオの前に現れるが、後に彼に仕える事になる。

二刀流の使い手である。

アゼル・レ格蘭ド・ベラミー＝フィンダリア：時の帝国宰相、
またはベラミー公爵とも。マチス・ガルボ三世の皇弟にして、エレインの父親。「Bellamy」は奉領地の名。故人、『風』の聖獣持ちであった（外伝より）。

アナベラ・クラリーネ・フィンダリア：
フィンダリアの第14皇女、サリアの異母姉。リオンやジュリアスから見れば異母妹。

黒髪と神秘的な瑪瑙石の瞳の、やや頬骨がチャームポイント：つまりはつきり美女とは言えませんが皇女。奉領地「メラニー」を持つ。
おそらく母方の一族は大貴族だろう。

考えたほど意地悪ではないのかも……それとも年相応に分別を持ち始めたので、サリアにも普通に接する事が出来るようになったのかも知れない。

あるいは「公女」の異母姉妹との確執の方が深刻なのかも知れないですね

そんな彼女は何処に嫁ぐのでしょうか？（U）nn、まだ未定）

名の由来はありません…適当に人名変換サイトで作ったお名前です。

「アナベラ」 英語系。

「クラリーネ」 仏語系。

『アリスノス』：エレインの聖獣。『地』の特性を持つ、人型を取る時は麗しい偉丈夫。

その名は『鉱石の神』、『大地の神』を表す。

アルヴェーン：詳細は「サ行」。

『アンドルデイス』：秘密の聖獣さんその1(?)。

その名は『スキーの女神』、『冬の女神』、(由来は女神スカディやスクルドの別名。)

主は超冷たい(ツンサマな)お方。

イリーナ：ユーリー2世の後。本名はイリーナ・アナスタシア
リユーリク＝シグルフ。

嫁ぐ前の名「Ingegard インニヤール」をシレジア風に改名している。(という設定有り)カラリエーヴァ(女王・王妃)
(外伝より)

イリーナ・アナスタシア・フィンダリア＝シグルフ：

セネリオの三女。祖母の名をそのまま受け継いだ姫君。

(欧米では良く母親・祖母の名前を受け継ぎます)

イリーナ・アンジェリカ・フィンダリア＝シグルフ：

セネリオの長女。

結婚5年目にして誕生!!そんな記念すべき初子の娘に、セネリオは妻フレデリカや国王夫妻は「祖母・産みの母リーケ」の「イリーナ」という名に、セネリオの母にして国王ユーリー二世の妹「アンジェリカ」の名を与えたのである。

「アンジェリカ」はフランス語「アンジェリーク」、ドイツ語「アンゼリーケ」です。

イリーナ・フレデリカ・デラ＝ツァーリーツァ＝フィンダリア＝

シングルフ：

セネリオの正妃、シレジア国第一王女。セネリオとの間に一男五女をもうけた女性。

優しく聡明で、美しい金髪と若葉色の瞳の美しい女性。リオン・セリーにとっては従姉妹でもある。愛称は『リーケ』。

ヴァイス・ハーン：『南』ことマグルル帝国皇帝。

彼の名の由来：イスラム帝国ティムール朝（西アジア・イスラム史）。

正確に言うところの有名な「チングスハーン」の次男の子孫の血を引く家系「モグーリスターン・ハーン家」より。当主の名「ヴァイス」を貰いました。

「ヴァイスシュヴァルツ」ではないのです。

ヴァチスタ：カルドラにある皇后クラヴィアの奉領地。

医療ギルドの中心地。

流行ってましたね、映画、ドラマ……。

エステリード・デイラン・ヒクソール（18才）：

ヒクソール辺境伯の三姉妹の末娘。愛称「エスト」サリアの友人。

騎士団所属。護衛隊長。

栗梅色くりうめの短めの髪、生気に満ちた空色の瞳の美少女将軍。

元氣いっぱいの姫将軍……である。サリアを取り巻く身内に好感を持たれており、特にジュリアスが最愛の妹の事を頼める数少ない異性である。

エルザム・トロンベ・バーナー：フィンダリア帝国にある東の貿易都市「フェニキア」の総督府の責任者。市長、いや知事に近い権限がある。前皇太子リオンの腹心でもある。

分かる人には分かる「名」でしょう。ハハツハ？

エルフリーダ・モードリン・マカリストアー「フィンダリア（22才）：

フィンダリアの皇太子妃。ジュリアスの正妃で、海を越えた遠方の豊かな国の姫だった。

彼との間に1子「ジョシユア・アウグスタス」あり。

美しい姫であるがジュリアスからは子を成してから、ほとんど相手にされていない。

ジュリアスを愛しているのだが…。

燃えるような朱金の髪と、灰色がかった碧の瞳の持ち主。

名の由来：イギリス史より。

エゼルレッド十二世：リーヴェ共和国の国王。（外伝）

かつてシレジア侵攻を企てた野心溢れる新王。

これから触れていくでしょう。

エレイン・アレクサンドラ・パヴィア「フィンダリア：

先帝の孫、現帝の弟皇子の子、つまり、ジュリアス・リオン・セネリオの従姉妹^{いとこ}。現在は「聖獣」を持つ事から『教母』と呼ばれている皇族。

昔からの想い人「セリー」を愛している。

淡い褐色なる櫛色^{かほいろ}の髪と瑠璃色^{るりいろ}の瞳の美しい女性。

エレナー：フィンダリア帝国第2皇子ジョアン・ガルボ・フィンダリアの実母。フィンダリア帝国の大貴族出身の時の寵姫にして準妃。後宮に多大なる権力を持っていた……

名の由来：イギリス史より。

「王華殿」：フィンダリア帝城内宮の奥にある、皇后クラヴィアの為の離宮。

世界設定集〈力行

<フィンドリア帝国史世界設定集〉力行>

順次更新予定（年齢は現在で）

登場人物（ ） ・ 用語（ ）

ガイア大陸：このお話の世界。

ガイア大陸の『大華五カ国』：フィンドリアと『東・西・南・北』の国の総称。

カトリーナ・グレン・ヒクソール：

ヒクソール辺境伯の三姉妹の次女。愛称は「カチュ」。エストの姉さんその2。

カリーナ：本名は「故オクリーヴ男爵夫人カリーナ」（まだ本名未発表）で、20代後半の子持ちの未亡人。

赤い髪に肉付きの良いなかなかの美女、サリア付きの女官の一人。ジエラールと肉体関係を持っている。

カルドラ：

この世界の「東」〈「中央」にかけての大国。

現国王は「カルロス三世」、フィンドリア皇后クラヴィアの同母弟。イメージ的には「スペイン・ポルトガル」です。

ガロベニス公クライス：國務尚書サイアスの父でもある。

『坎の塔』：フィンダリア皇城内の最北深部に聳える塔である。
別名『獄門塔』。二重扉中から明かり隙間窓なし。

ガリーリチ：シレジアの武将

ガロベニス公マティアス：典礼省長官。（外伝）

息子に後の国務尚書ガロベニス公クライス、孫にサイアスがいる。

本編では引退

クラヴィア・ファナ・カルドラーム・フィンダリア（37才）：
フィンダリア現皇帝の3人目の正妃、現皇后。元は隣接の大国カル
ドラの第1王女。

大国カルドラ王女出身で皇后として宮廷内に多大な影響力がある。
13才で嫁ぎ、15でジュリアスを産む。22の時に娘を「死産」
し、同時期に後宮で皇帝が別の侍女に産ませた庶子「サリア」を「
我が子」の様に可愛がり、後に「代母」となる。しかし実際は……
蒼穹の瞳と豪華なやや朱金の髪の持ち主。

かつての婚約者にして前皇太子リオンと密かに愛し合う。

Clavira（英） Klavier（伊） Clavier（
独）……スペルはいつぱいあるよ！

ドイツ・イタリアなら「クラヴィーア」の方が正しい発音でしょう。
鍵盤楽器の事です。昔はチェンバロだとかパイプオルガン等を含め
た総称、主に今では「ピアノ」を指す。

だから彼女の得意楽器は「チェンバロ」ですね！
子供達にたくさん聞かせた事でしょう。

ちなみにセカンドネーム「ファナ」はスペイン読みで「ジョアンナ」
の事です。

グランダル：フィンダリア帝国マチス・ガルボ三世の庶子、『公
女』が持つ奉領地。

まだ名前だけです。

グランベル：ジュリアスの奉領地。

まだ名前だけです。きっと裕福な所でしょう。

グルニア：歴代フィンダリア皇太子に授けられる特別な奉領地。かつてのフィンダリアの古都、そして聖獣がいるという『聖地』がある。

現在の所有者は前皇太子マチス・レオナート。

クレストア：フィンダリア北東部にある都市。都市伯領。

クレンネル侯爵ラインノール：財務尚書、白金の髪、鋭利さの光る藍鉄色あいてつの瞳は、片眼鏡を付けることで更に磨きが掛かっている。姿は細身のいかにも秀才美青年文官に見えるが、その視線には武官ですら敵わない。前皇太子の腹心にして幼なじみという過去を持つ。愛称は『レイ』。そしてそれ以外の顔も……

彼の名もリオン同様「ドラゴンフォース」から。クールなエルフの弓使いさんです。

クロンクヴィスト：正規軍第八師団の副将。（姓である）

『コカビエル』：秘密の聖獣さんその3(?)。

その名の意味は『星の天使』。（名の由来はキリスト教、エノクの書「星の天使」Kokabiel）¹より）

またこの聖獣には別に『星華』という『真名』なるものが主より与えられている。

() 『本編』では、現在『主』同様フィンダリアにはいません

ゴルバーン：かつての軍務尚書にしてマチス・ガルボ三世の腹心
だった男。

後に娘を後宮に入れ、その後娘は目出度く子を懐妊し出産。

男子だった事から……

彼の事は後に大きく触れるでしょう。

世界設定集\サ行

<フィンダリア帝国史世界設定集\サ行>

順次更新予定(年齢は現在で)

登場人物()・用語()

サイアス・クローム・ガロベニス(24才) :

ジュリアスに仕える側近にして帝国貴族。

宮廷での地位こそは「書記官」だが、不敗の皇太子を支える軍師でもある。

幼年より神童として知られるジュリアスの参謀。フィンダリア帝国の大貴族。現國務尚書の父と、かつてフィンダリアによって滅ぼされた国の王家筋の末裔を母を持つ。(という設定)

慈悲と冷酷さ・智と武を見事に使い分け国を治めるジュリアスに心酔し、厚い忠誠を誓う。

銀に近い金髪と、黎明を思わせる深い藍色の瞳を持つ、涼やかな美貌の持ち主。

サラニア :

フィンダリアの「北東」に国境の河に接する国。

北東部は幾つかの著名な鉱山があり、よく国境にてフィンダリアと小競り合いを起こす。

現国王は「ギョーム六世」。

サリア・フィーネ・フィンダリア(15才) :

フィンダリアの第18皇女。(庶子などの順でいくと30女くらいか?おい...)

蒼穹の瞳。金の髪、その髪と美貌から「光の姫」といわれている。母は女官、だがその後皇后クラヴィアに引き取られ育てられる。幼き頃から異母兄ジュリアスに愛され、現在は「あること」が契機となり彼と「親密な」関係に至る。だがその真の出生の秘密から端を発し数奇な過酷な運命に見舞われていく事になるヒロイン。まだ「聖獣」を持っていない皇女。

「サリア」とはスペイン読みなので、綴りは「Sarria」。「r」が一個ダブリます。

フランス語だと「Salire」、ドイツ語だと「Saria」で「ザリア」かな？

彼女の名前の由来は「シレジアの王太子」第27・28話 希望を託す子供達をご覧下さい。

ジェラルル・ハスエル（26才）：

ジュリアスに仕える側近にして帝国の正規軍第一師団長。

彼の生家は過去に幾人もの騎士団長を輩出した武の名家にして『東』の辺境伯シアルファイ家。「シアルファイ」という名をあまり名乗らないのは……理由有り。（まだ秘密）

平時はジュリアスの護衛、戦場では右腕として猛将と化す。

ミッドナイトブルー（濃黒灰青色）の瞳、栗色の髪、男性的で精悍さを併せ持つなかなかの顔立ちをしたを偉丈夫の男である。美女好き、現シアルファイ辺境伯弟。

ジャン・カール：
アクストリア

『西』の宗主国王。近隣諸国で『貪欲』『陰険』『嫉妬深い』の三拍子揃った王として有名である。プラス『狡猾』。

（2009/12/29 「シャガール」より人名変更。）

シエルリング：フィンダリア帝国正規軍第五師団長。

ジパング：

正式名称「神聖ジパング帝国」。ガイア大陸ではない異大陸にある
大国。

リオン・ラインノールの丁稚奉公^{スメンノミコト}…いや遊学先。

神の末裔と言われる歴代の皇尊様が治めし国、リオンが遊学して
いた当時は、約一世紀に渡り男子がいなくて女系の国家元首であつた
のだが…：現在には性別上は男王。

国家想定）古代YAMATO（7割）＞帝政るまーな（3割）？
よって後宮有り。

「j a p a n」(小文字、名詞)：「漆、漆器」より。

ジュリアス・アウグスタス・フィンダリア(22才)：

「皇后腹」のフィンダリアの現皇太子、実際は「第五皇子」である。
グランベル公とも。

蒼穹の瞳。漆黒の髪、気性は激しいが天賦の才に恵まれた皇子。

14才で初陣を勝利で飾り、それ以降は不敗の皇子として帝国内、
そして隣国にまで知れ渡る。現在「病床の父帝」の代行者、政務の
大半を「肩代わり」し摂政皇太子を勤める。

兄でありながらも実妹サリアを溺愛している。「聖獣」を持っている。
る。

シューイスキー：シレジアの武将。(ア行に詳細あり)

ジョアン・ガルボ・フィンダリア(37)：フィンダリア帝国第
2皇子、準妃「エレナー」の子。セネリオ曰く「馬鹿ジョン」。

シレジア：

『北』と呼称されるこの世界の「北」は「中央」にかけての大国。王都ホルムガルド。

現国王（2章・外伝）は「ユーリー二世」。ちなみにリオンとセリイの伯父。そしてサリアの大叔父。

「シレジア」はゲームだけでなく現実世界にもある地名です。（他のプロ作家さんもこの地名を起用しています）場所はポーランドの一地方なのだが、複雑な歴史背景のある土地です……

ちなみに「シレジア」という読み方はハンガリー語、英語だと「Silesia」サイレジア」となります。

スヴァトスラフ：シレジアの武将。

スタファン・ベルンハルド・アルヴェーン：フィンダリア正規軍第八師団長、ジェラルドに次ぐ若さで、女好き。

そしてエルフリーダの手下になりました。

セリス・レグランド・フィンダリア：

フィンダリアの第七皇子。母は生後すぐに亡くなり、その経緯を聞いて哀れんだ教母エレインが、この皇子の後見人となる代母に立つ。と、公にはされているが、実はセネリオとエレインの『あの一夜』の子。

セリス：あの某ゲームの主人公から。

セネリオ・レグランド・フィンダリア（36）：

本編二章では（33）。

北の大国シレジアに『婿養子』となったフィンダリア帝国第3皇子

で、現在の正式名称を『セネリオ・レグランド・デイス』ツァーリ
『フィンダリア』シグルフ』。
セネリオ・レグランド・デイス』カローラ』フィンダリア』シグル
フ。

シレジア王太子、後のシレジア王国フィンダリア朝の開祖、そして
リオンの同母弟。金の髪、翡翠の瞳の持ち主。

長兄をこの上なく敬愛している所謂ブラコン。『聖獣』持ちの人物。

ちよこつとうんちく：ロシア語で『皇太子』『世継ぎ』を意味す
る言葉は「ツエサレーヴィチ」です。

セルベル：フィンダリア正規軍第十師団長。

ソフィア・アンジェリーカ』リユーリク』シグルフ』フィンダリ
ア：リオンとセリーの母親。かつてのシレジア王妹にしてフィンダ
リア帝国第一正妃、既に故人。

陽光の髪と翡翠の瞳の美女：であろう、孫娘は彼女にそっくりさん
です。

皇帝との夫婦仲はどうだったのかは：これから外伝で触れるでしょ
う。

ソフィア・フレデリカ・フィンダリア』シグルフ：

セネリオの次女。セネリオの母にして国王ユーリ二世の妹「ソフィ
ア」という名と、娘の母「フレデリカ」の名を授けた。

フレデリカという名は、イタリア語では「フランチェスカ」、ド
イツ語では「フリーデリーケ」等で呼ばれます。

「ソフィア」はあの有名なエカチェリーナ二世の本名です。（ド
イツ語「ゾフィー」）

また、東ローマ最後の皇帝の姪もソフィアです（ギリシヤ語は「ソ
ラ」）。

彼女がキエフ大公に嫁いだ事が、ロシアにロシア聖教とロシアがロ
ーマの後継者として「ツァーリ」と名乗る由来となります。

世界設定集〜タ行

<フィンダリア帝国史世界設定集〜タ行>

順次更新予定（年齢は現在で）

登場人物（ ）・用語（ ）

『テイルフィング』：秘密の聖獣さんその2（?）。

その名は伝説の武器。（ケルトの魔法剣）

主は結構豪快さん。

主従よりも相棒です。

タツカー子爵ベアトリス　：リオンに近づいた高級女官……。

タナトス・シーベル・フィンダリア（30）：フィンダリア帝国
第4皇子で、第二正妃ニユクシーヌの子。セネリオ曰く「阿呆トニ
ー」。

ああ哀れな作者的な「有馬皇子」さんでした。

ダレット：

ラゴール伯の娘。ジュリアスの後宮にいる女。赤銅色の髪、萌黄
の瞳、白磁の肌に見事な豊満な胸、さも自分の美貌とプロポーシヨ
ンに自信があるのが見て取れる。

(彼女はちょい役で終わるのか?)

チエブーニン侯爵リュドミール：シレジア王国宮宰。

なかなか愉快的な宮宰、国王との掛け合いもピカイチである。
年は国王とほぼ同年、セネリオが国王になる時には引退。
後継を義理の息子に託してます。

デイズニー：

本名はリカード・カーク・デイズニー。

三〇代後半の若さで枢密卿。

髪も瞳も灰色なやせ形の壮年、親しみやすさがない男。
また彼の姿という外壁を形成する秀麗な顔立ちが、尚一層彼を冷たく見せる。

彼にはもう一つの設定あり。(こっご期待!!)

トパーズ国：フィンダリアとマグールの国境に挟まれた国
これからどうしようかな？

トリスラーム：『西』ことアグストリア諸国連合の『宗主国』ア
グストリアの第2王子
彼はまた再登場します。

トリフィス：フィンダリア正規軍第二師団長。

世界設定集ノナ行

<フィンダリア帝国史世界設定集ノナ行>

順次更新予定(年齢は現在で)

登場人物()・用語()

ナターシャ・フレデリカ・フィンダリアⅡシグルフ：セネリオの五女。

ジュリアスの息子、ジョシユア皇子の婚約者。

ニユクシーヌ・アグストリッドⅡフィンダリア：

フィンダリア帝国第二正妃、生国は「西」アグストリア王家。第四皇子の生母。

ジャン・カーレル王の姉。

リオン曰く「西の毒婦」(外伝)。

名の由来は「ニユクス」から。

ギリシャ神話の「夜の女神」で、死の神「タナトス」を産む女神である。

ネデリン：シレジア軍アリオルト坦克の老将軍。(外伝より)

多分セネリオ即位の時は引退しているでしょう。

ノルン伯爵ユーグリス：フィンダリア帝国司法長官。

男爵家三男から出世した宮廷の重鎮、年は皇帝マチス・ガルボ三世

と変わらぬ人物。

『ニフリート・ドヴァリエーツ
翡翠宮殿』：シレジア王都ホルムガルドにあるシレジア王宮の
宮殿名。

その宮殿の屋根の色が翡翠色をしている事に由来する。

「ニフリート」がロシア語で「翡翠」、そして「ドヴァリエーツ」もロシア語で「宮殿」を意味します。そのまんまですね。

ノーサンブランド：カレリア海に点在する島国の一つ。リーヴェ共和国に隷属されたように存在する国家。

ベリノア王の治めていた国、そして今は長子が治めているはずである（アグロヴァルの兄）。

国旗は、青地に金のコックフィッシュ（雄鶏の胴体と魚の尾びれを持つ紋章獣）とシールド内にアザミを配している。（設定）（外伝より）「予定」

世界設定集〜八行

<フィンダリア帝国史世界設定集〜八行>

順次更新予定（年齢は現在で）

登場人物（ ） ・ 用語（ ）

ファレイナ国：シレジアの隣国。

バイロン・ガルフォード・シアルファイ：

シアルファイ家の現当主、シアルファイ辺境伯。かつてのグルニア守備隊「グルニア騎士団」の団長、別名「皇太子の親衛隊」。リオンの腹心。別名を「バーン」。

ミッドナイトブルー（濃黒灰青色）の瞳、濃い蜂蜜色の髪、弟同様男性的で精悍さを併せ持つなかなかの顔立ちをしたを偉丈夫の男である。

そして別の顔は…

パトリシア・キース・ヒクソール：

ヒクソール辺境伯の三姉妹の長女。現当主。愛称は「パティ」。エストの姉さんその1。

子持ちでしょう。旦那は…まだ考え中。

パヴィア：エレインの奉領地。

バーン：バイロンのこと。

『ピカゾー』：リオンが遊学先で知り合った…出会ってしまった異国人。化学者、自称芸術家、発明家、花火作りが趣味のオカマ調の言葉で話す男。

リオンが唯一家族以外で『愛称ヴァレリー』で呼ぶ男でもある。

フィンダリアでは『ヴァレリー・フラマ・エムバーレン』と名乗り、あるいはセネリオがつけたあだ名そのまんま『ピカゾー』が通り名である。

フィンダリアでは、リプル伯を贈位され希に見る待遇で扱われていた。

後に帰国する時に、リプル伯は返上している。

一見すれば、きはだいろ黄檗色の金の髪、瞳は透き通ったまるで紫水晶を思わせる藤紫色をした美女…しかし男。

本当の彼には幾つもの名前があり『真名』（陽鷲「ヒサギ」）・『幼名』（天藍「ティンラン」）・『成人名』（マルクス・ヴァレリアヌス）に要職名にして真の正体は神聖ジパング帝『シャインング・フォース武帝』だから彼はリオンの唯一の『心友』である。

だから彼らしかお互い『友』とはなり得ないのだった。

そしてこの中にセネリオが加わる…のであった。ちゃんちゃん。

Flamma…ラテン語で「火」

Emballerin…ギリシャ語で「紋章」、後に英語の「Emblem」の語源となる単語…。

分かる人には分かる、作者の遊び心。

（『本編』では、現在『彼』はフィンダリアにはいません。しかし彼は後にサリアに重大に関わっていくでしょう…）

フィリップ・リユーネ・フィンダリア：

サリアの約3才上の姉、年はエストと同年代。

赤茶色の髪と灰緑色の瞳を持つ美しい皇女、実母は上流と迄は言えないが貴族出身、苛めっ子姉さんその一であった。ちなみに『ペンネ』を持つ第16皇女でもある。

フィンダリア：

この世界の「北東」く「中央」にかけての大国。現皇帝は「マチス・ガルボ3世」。

ブロン

フィンダリアの通貨の一つ、最小単位の銅貨。日本円にして ¥10。

ビリュコフ：シレジアの武将。

フェアファクス侯ローランド：帝国国務尚書。閣僚を束ねる要。セネリオに好意的。

別名「借金尚書」……。

フェニキア：帝都パレスから「東」の国境沿いにある都市。総督府がある。

フェニキア総督エルザム：詳細はア行を。

フレイム：フィンダリア正規軍第十一師団長。老練な武将である。
(姓である)

バイセル：北西のミケラル辺境伯の当主。(名である)

ベイリン：フィンダリア正規軍第七師団長。(姓である)

『ヘスペリス』：白銀の体と翼、紅緋色べにひいろの目と尾を持つ『竜』などの姿をとる、セリーの聖獣。『火』の特性を持つ。その名の意味は『黄昏の乙女』。

ペリノア王：ノーサンバランドの王。

セネリオと激戦した国王、最後は「レルカー会戦」にて戦没、悲王である。

パーシヴァル、ラモラック、トア（トール）、アグロヴァルという息子がいる。

末子アグロヴァルは後にセネリオに仕える事になる。

『辺境伯』 「フィンダリア国境沿いに位置する『地方伯爵』である。

辺境「イコール」「田舎」ではない、それは『国境』の意味に近い。殊にフィンダリアにおいて『辺境伯』は特別な意味を持つ。

他国に隣接するが故に常に外敵の驚異にあり、また国内への敵侵攻を食い止める第一級前線地域である。

そんな地域を治める領主達は守備の為、固有の武力を持つ事を歴代の皇帝より許されていた。

……そして、いつしかそれは『守備隊』から『辺境軍』となった。これが国境沿い『16の師団』と言われるものであった。

サラニア侵攻を必死で食い止めていたのも『北東の辺境伯』つまり師団の一軍である。

よって皇帝より本来の『伯爵』よりも『侯爵』同等位と見なされ

る『辺境伯』が生まれ
たという歴史がある。

代表的な家名「シアルフィ辺境伯」「ヒクソール辺境伯」「ミケ
ラル辺境伯」……

ペンネ：フィンダリアの第16皇女フィリップ・リユーネ・フィ
ンダリアが持つ奉領地。

『奉領地』 国の支配者によって統治権を与えられた『限定
領土』、与えられた者の身代限り『領地』。その死後は領土保有国
に返還される。

その規模・豊かさ（収穫・資源・文化）・立地条件（自国と近い、
交易拠点あるいは戦略拠点）の付加価値と権利授与者こくわいによって『爵
位』が与えられる。

ボゴリユープスキー：シレジアの武将。（外伝）

ホルムガルド：シレジアの王都。

世界設定集／マ行

<フィンダリア帝国史世界設定集／マ行>

順次更新予定（年齢は現在で）

登場人物（ ）・用語（ ）

マーゴ：本名は「マーゴット・アニタ・エッジワース」（まだ本名未発表）。

ジュリアスの馴染み深い古参の女官。ジュリアスの後宮『春日殿』の女官長。
子爵家出身。

マーボン：フィンダリア正規軍第九師団長。（姓です）

マゲール：

『南』と呼称されるこの世界の「南」中心部の大国。
現皇帝は「ヴァイス・ハーン」。

マチス・ガルボ・フィンダリア（63才）：フィンダリア現皇帝
マチス・ガルボ三世。

ジュリアス達の父。しかしサリアにとっては……
すでに齡60を超えている。かつては列強を震え上がらせた武帝で
あり、漁色家でもある。

帝位継承を巡る争いなどで、過去に正妃を3度変えている。妾妃、

寵姫を数多く抱えて子をませた。

現在は「病床」につき公にはめつきり姿を見せず、後宮内に「養生」している。

マチス・レオナート・グルニア「フィンダリア（40才）：

現「帝国宰相」。現皇帝マチス・ガルボ三世の「第一皇子」である。ジュリアスとサリアの「兄」。かつての「第一正妃」の嫡子にしてフィンダリアの「前皇太子」、今は臣下に下りグルニア大公と名乗る。父と同じ名を持つ故、自身は「リオン」と呼ばれる事を好む。金の髪、翠玉の瞳の持ち主。温厚な人柄と思われているが実際は…起こらせると怖く、そして希有なる「聖獣」を持つている人物。（それ故に『雷帝』とも弟達に畏れられている……）

宮廷内では「両刀使い」と言われるが…密かに愛し合う女性がいる。

ミア（25才）位かな？：「エフェミア」が正解名でフル本名は…「秘密」。サリア付きの宮廷女官で、『ミア』は「愛称」。その由来は、幼かったサリアが彼女の『本名』をちゃんと呼べなかったことからきている。そして本名を隠すために…わざとでもある。これから語る事になるが…ある謀反の咎で一族処刑の憂き目にあつた娘。密かに時の皇太子によつて幼い『兄弟』と共に助命され、その後皇后に匿われた経緯がある。それが彼女の忠誠心の原動力ともいえるだろう。

サリアの「過去」を知っている。サリアの「過去」を守るために常に心を砕き、美しく、優しい忠義の女性。

ミラ：伝説の創始の乙女。

ミラボー：フィンダリア帝国マチス・ガルボ三世の庶子、『公女』
が持つ奉領地。

まだ名前だけです。

ミルヴェーデン：フィンダリア正規軍第六師団長。

メラニー：フィンダリアの第14皇女アナベラ・クラリーネ・フ
インダリアが持つ奉領地。

ムーランジュ：フィンダリア帝国侍従長。

モノマフ：シレジアの大使

世界設定集〱ヤ行

<フィンダリア帝国史世界設定集〱ヤ・ワ行>

順次更新予定（年齢は現在で）

登場人物（ ） ・ 用語（ ）

ユーグリース：フィンダリア帝国司法長官。（詳細はナ行）

ユーリー2世：シレジア王。セネリオの伯父。一人娘の父。

シレジア王国リユーリック朝最後の王。カローリ（王）、本名はユーリー・コンスタンチン・リユーリック＝シグルフ。

普段はポヨヨンとした愉快な、ノリの良い王様である。

しかし侮れない人物、その腹芸は天下一品。

セリーも結構振り回される。

夫婦仲は非常によい家庭的な人物。

「『北』の居眠り獅子」という異名があり、つまり怒らすとリオン同様コワイ……。

（外伝より）

本編三章〱国王の地位をセネリオに譲り引退、妻とほのぼの隠居生活。

その成り行きはこれから書きます、頑張つて。

要は次代を新しき世代に託したんですね。

その後はあっちこっち旅行三昧、船にも乗って旅もします。

目指せ「問題解決ご隠居様!!」、行くところで事件解決をする、
まるで水戸黄門ライフです。

名の由来はロシア史、キエフ大公「ユーリー1世」ドルゴルーキ
「」(ドルゴルーキーはあだ名「手長」：野心溢れた人でした)

都市モスクワを創始した国主です。

モスクワ市民には開祖として今もなお親しまれています。

ユベール：ヒクソール辺境伯。エスト達の父。

フレイムの戦友でもあった。

(戦争する以上誰か犠牲はつきものです。フレイムの代わりに死に
ました。作者)

世界設定集〜ラ・ワ行

<フィンダリア帝国史世界設定集〜ラ行>

順次更新予定（年齢は現在で）

登場人物（ ） ・用語（ ）

ラインノール：クレンネル侯爵の事。（詳細は力行）。

ラゴール伯：フィンダリアにある都市伯。富豪、成金趣味らしい。
ダレットの父。

『リーフ』：リオンの聖獣。少年系。『光』の特性を持つ。その名の意味は『光』：『光の神』を指す。その力は未知数？ある時は小姓となり、ある時はオオカミになり、そして腕輪にもなる。『ヘスペリス』同様に主べつたり系の聖獣。

『リーヴェ共和国』：カレリア海の北方の海域諸島の朝貢国の宗主国。

かつてシレジアに戦いを挑んだ国。当時の国王はエゼルレッド十二世。

紋章は「紺碧色の旗地、中央に黄金のリヨン・ポワソン（ライオンの上半身に、魚の下半身。その姿はシンガポールのマーライオンに近い）を描き、錨に剣」

「共和国」というものは、厳密に言うと国家元首が国王だと矛盾するので。

何故なら共和制とは、国家元首を直接選挙か間接選挙で選ぶ政体ですから。

だから国王が存在している事が変なんです。

なので、この小説では「リーヴェ共和国」はかつてのローマのように元老員が選挙によって自分たちの指導者を決めたように、国王を決めていると言う設定です。

いわば、この小説ではある程度恣意的しに使われるものだと思って下さい。

あくまで設定なので、この事は突っ込まないで下さい。

リプル：サリアの『奉領地』

北東にある田舎領地らしい。

ルネス：セネリオの奉領地であったが、その後フィンダリアに返還される。

その後……第七皇子の奉領地となる。

「レイ」：ラインノールの愛称。

レーガン：フィンダリア国教「アース正教会」の最高位を持つ「総大司教」。

正式名はロジャー・サミュエル・レーガン。

「総大司教」とはフィンダリアに限らず各国の宗教の最高裁治者を指す。

宗教界に関しては、国内で彼に逆らえる者はいない。

年は現在70歳の太台に乗ったばかりで、今年総大司教の座に就き

10年目を迎える。

一見人当たりの良さげ。でぶそしてハゲおまけにスケベ。
というお爺ちゃん。

名の由来は某国の有名な人…昔は俳優、そして政治家として「N
O1」となり日米の「蜜月時代」を築いた立役者でした。

世界設定・その他

主な周辺国家

ガイア大陸：このお話の世界。

ガイア大陸の『大華五カ国』：フィンダリアと『東・西・南・北』の国の総称。

フィンダリア：

『中央』と呼称されるこの世界の「北東」～「中央」にかけての大国。

現皇帝は「マチス・ガルボ三世」。

カルドラ：

『東』と呼称されるこの世界の「東」～「中央」にかけての大国。
現国王は「カルロス3世」、フィンダリア皇后クラヴィアの同母弟。

サラニア：

フィンダリアの「北東」に国境の河に接する国。
北東部は幾つかの著名な鉱山があり、よく国境にてフィンダリアと小競り合いを起す。

現国王は「ギヨーム6世」。

シレジア：

『北』と呼称されるこの世界の「北」～「中央」にかけての大国。
王都ホルムガルド。

現国王は「ユーリー2世」。ちなみにリオンとセリーの伯父。そし

てサリアの大叔父。

アグストリア諸国連合：

『西』と呼称されるこの世界の西の大国連合国。『宗主国』の名が『アグストリア』

シエビニオン、バランタイン、アビホーン、マルベリー、シヨパール、モリナールという六カ国が、『宗主国』アグストリアという国を中心にまとまる合州制の大国。
現国王は「ジャン・カーレル」。

マグール：

『南』と呼称されるこの世界の「南」中心部の大国。
現皇帝は「ヴァイス・ハーン」

トパーズ国：フィンダリアとマグールの国境に挟まれた国

国内

内政官庁

国務省：全てをまとめる雑用さん。（尚書の「N01」）

財務省：お・か・ね。経済発展推進部門「商業ギルド庁」も此所の配下です（尚書の「N02」）

軍務省：所謂軍隊の制服組。軍隊はやっぱり此所ドス。（尚書の「N03」）

三立法省：「司法庁」と「元老院」・「ギルド院」（平民代表者による、金がないと議員になれないことから）

外務省：国外の治安維持。（故に外交）運輸庁もここに管轄どす。
内務省：国内の治安維持。食糧庁・衛生庁（疫病・福祉対策、『厚生省』のようなもんです）を管轄しています。

工部省：城砦なおしたり、橋作つたり、その他開墾事業を助けませう。

文芸省：フィンダリア文化の発展。

典礼庁：貴族社会の相続・もめ事解決部署ですな。

宮内省：皇族がらみの式典等の取りまとめ、宮廷に働く女官・従僕なども此所に管理されます。

枢密院：皇室関係者からなる皇帝の最高諮問機関、いわゆる「ご意見番」であつたが現在は「閉院」中。理由は外伝。

フィンダリア帝国内の信仰宗教中枢『大聖教』こと「アース正教会」の総大司教も特別査問官として儀礼の時は入る。

軍事編成：中央に12師団、国境沿いに16の師団が存在。

長：三軍長（軍務尚書、統合幕僚長、大師団長）現在「統合幕僚長・大師団長」はジュリアスが兼務。但し「統合幕僚長」の役割『軍師』はサイアスが肩代わり。

軍事編成：中央に12師団、国境沿いに16の師団が存在。

長：三軍長（軍務尚書、統合幕僚長、大師団長）現在「統合幕僚長、大師団長」はジュリアスが兼務。

・フィンダリア帝国正規軍編成表

<中央>一二師団。

第一師団：第一師団長ジエラル、防衛担当区域は帝都中心部
第二師団：第二師団長トリフィス。防衛担当区域は帝都中心部
第三師団：第三師団長（まだ未登場）防衛担当区域は帝都中心部
第四師団：第四師団長防衛担当区域は帝都中心部
第五師団：第五師団長シエルリング防衛担当区域は東部防衛管轄
第六師団：第六師団長ミルヴェーデン防衛担当区域は西部防衛管轄
第七師団：第七師団長ベイリン、防衛担当区域は南部防衛管轄
第八師団：第八師団長アルヴェーン、北防衛管轄、
第九師団：第九師団長マーボン正規軍師団長、南東防衛管轄。
第十師団：第十師団長セルベル防衛担当区域は南西部防衛管轄
第十一師団：第十一師団長フレイム防衛担当区域は北東部防衛管轄
第十二師団：第十二師団長（まだ未登場だった）防衛担当区域は
北西部防衛管轄

<国境>16師団。

国境沿い『16の師団』は『边境伯』と言われる一六の名家によつて編成される。

フィンドリア边境伯軍配置図、（現時点）家名があるのは記載……

北「？」

北北東「？」

北東

東北東「？」

東「シアルフィ边境伯」

東南東「」

南東「？」
南南東「？」
南「？」
南南西「？」
南西「？」
西南西「？」
西「？」
西北西「？」
北西「ミケラル边境伯」
北北西「ヒクスール边境伯」

世界設定・その他(後書き)

色々と逐次推敲しています。

気付いた点等あればご指摘下さい。

(2009/12/29 地名(国名)・人名変更あり)

スペシャルサンクス編

スペシャルサンクス編

先日UTA様より「フィンダリア帝国史」のイラストを頂きました。
サリアとジュリアスです。

> i 3 3 2 0 — 2 5 6 <

作者が「サリアの髪はさらさらストレート」とお願いしました。
それ以外は全てUTA様のイメージイラストになります。
ジュリアスのイメージはやはり「真壁君」だそうです。
（作者と同じ乙女（？）世代ならわかるでしょうか？かつて「リボン」で一世を風靡したあのマンガのヒーロー！！）

クールだけど恋人の蘭世に優しいあの彼をイメージして下さいるとは、嬉しい限りですね。
グフフ。

・UTA様は作者と同じ「ムーンライト」でご活躍の先生です。
18才以上の皆様是非UTA様の作品「桃娘異聞（レオナルト編）」
（完結）「桃娘・果実籠」をご覧くださいません。

・誤字脱字を頻繁に手直しばかりの作者と違い、本当に素晴らしい

作品をお書きです。

アナタの煩惱を満たします。

最新作は「桃娘異聞（香女降臨編）」です。

この素敵なイラストを描いて下さったUTA様の為に、是非感謝のweb拍手をお願いします!!>i3321—256<

（この項の下です 携帯版は後書き前にあります）

UTA様本当に有難う御座いました。

ねおばーど かしこ。

世界設定「シレジアの王太子」篇

「シレジアの王太子」人物相関図（みてみんver）

> i 4 1 9 5 | 2 5 6 <

注釈1：ジュリアスはまだ7つ、このとき聖獣を持っていない。

注釈2：この時点ではまだ「秘密の赤ちゃん」の性別は不明。

注釈3：この時点ではまだセネリオとフレデリカに「赤ちゃん」は
いない事になっています。

あくまで、「シレジア王太子」の世界です。

「フィンダリア帝国史」の方はまだ制作中。

（登場人物が二倍に増えるので……）

「シレジアの王太子」国家相関図（みてみんver）

> i 4 1 9 6 | 2 5 6 <

あくまで、「シレジア王太子」の世界です。

「フィンダリア帝国史」は後日で。

コラム・シレジアの王太子「真の王朝の終焉」シレジア王家・新
旧の血の系譜」

> i 4 0 2 2 | 2 5 6 <

死と再生の聖獣『炎』を連れて皇子セネリオ。

シレジアの王太子で密かにテーマにしているものがこれです。

何故か。

血の断絶。

それは一族直系の男子が途絶える事をいいます。

「娘がいれば血脈は途絶えないでしょう?」

中にはこう言う見方もあります。

しかし事実はEND(終焉)です。

それは遺伝子で説明付けられる。

コラム挿絵は第22話 心は万里を駆ける(1) 作中、

「先祖よりそしてその子孫へと、例え世代交代し…血は少しずつ変わり、家名が替わろうとも。

シレジア王家は、現国王ユーリー二世を持って現王家リユーリク

の家名は消える。(話・抜粋)「

で書いたことを図に表した物です。

別名メンデルの法則。

大まかに結論づけるとこうなります。

イブ仮説という物があります。

それは「人類全ての祖は一つである」というものです。

実際母系人遺伝子「X」を解読していくと、一人のアフリカ系先祖に辿りついたといえます。

何故「X」?

簡単なことです。

それは「X」は混ざり合いつつも、決して滅びないから。

それに対し「Y」は皆固有の物、決して混じり合って存在しないのです。

(「YY」遺伝子自然消滅の法則→致死遺伝子)
だがそれ故に「Y」は個。

独自の存在で種の起源を系譜となしていく。

それが人として当てはめていくと、血族となります。

王家もまた血族です。

父系人遺伝子「Y」は、それを持ち合わせるだけで一体どの「血族」に属するか判別出来ません。

ここで注目すべきは、子孫。

子は父から半分、母から半分遺伝子を貰って誕生します。

男子は父から「Y」を、母から二つある「X」の内一つを貰って

……

女子は父からも、母からも「X」を貰って……

こうして誕生した子は成長する。

同じように子孫を作るでしょう。

その時、新しく生み出す子孫　　子は、どうなるのでしょうか？

これがもし男子で、同じく生み出すのが男子なら、子は父から貰った「Y」を同じように子に「Y」を渡すでしょう。

正真正銘「Y」は血脈を表しますから、父と同じ一族です。

では女子は？

これがややこしいのです。

父の持つ「X」はその母、子には「祖母」にあたる人の「X」です。この「X」は余所からきたもの、いわば父にとっては「血脈」ではないのです。

そして無論子の母となる人の「XX」も、父にとっては「血脈」ではないのです。

血脈の判定をするには、あまりに「X」は混在していくので、見分けが困難になります。

だから父系「Y」が生きてくる。

たとえ直系「Y」が断絶しても、傍系の「Y」がまだ残っていれば血脈上、まだその一族の系譜は途切れてない。続いていけるのです。

かつての中世・西フランクの一伯爵だったカペー伯ユーグ。

彼がフランス王国カペー朝を開き、直系の血が子孫シャルル四世で終えようとも、その父フィリップ四世の弟の子がフィリップ六世として即位して続き、今なおルクセンブルグ公国とスペイン王家にカペーの血を残すように。

そして天皇家に傍系で「宮家」を作るのもその為だったのです。

(明治・皇室典範より。それ以前の「宮家」は別物。選ばれた「宮様」以外は出家か臣下)

これは皇室典範法改正でよくその道の学者さんが「反対論」で取り上げるところ。

表を見ていただければ分かりますが、このフレデリカの立場がああやんごとなき「内親王様」になってしまうのです。

ああ、決して男尊女卑ではないので、そこところはあしからず。

世界設定「フィンダリア帝国史」篇

「フィンダリア帝国史」人物相関図（みてみんver）

その1・「フィンダリア帝室相関図」表」

皇帝マチス・ガルボ三世とその子供達です。
主に概要。

> i 4 6 1 2 — 2 5 6 < 別名「種馬相関図」。

すばらしきかな、種付け人生。

頑張ったよサンデーサイレンス。

> i 4 6 1 1 — 2 5 6 < それとも『フィンダリア夜の閨事情』とで
すかね。

> i 4 6 1 7 — 2 5 6 <

注釈1：三章・二章（過去）兼用になります。（『故人』を記載し
すぎるとネタバレになるため）

注釈2：この時点ではまだサリアは聖獣持ちになるか不明。
注釈3：クレネル候夫人とシアルフィ辺境伯夫人は近日公開します。

何故これは『表』になるのか。

それはフィンダリア国内の『公式発表上の家系図』になるからです。
ただ今ネタバレバレな『裏』を制作中。

それはヒロインサリアの秘密。

続いて皇后の愛人の正体、あの二人の“隠し子”とか……。

その他の登場人物を含めた相関図も制作予定です。

出来るまで今しばらくお待ち下さい。――（＾）――

世界設定「フイランダリア帝国史」篇（後書き）

> i 4 6 1 0 | 2 5 6 ^ > i 4 6 1 1 | 2 5 6 ^

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1526h/>

フィンダリア帝国史世界設定集

2011年8月26日00時21分発行